

特別委員会

観光振興調査 特別委員会

二月十五日開催

これまで、貴重な観光資源となりうるものを発掘するため、鍋島家ゆかりの品々が収蔵されている徴古館収蔵庫を視察し、鍋島報効会と意見交換を行ったり、大隈記念館を含めた新たな観光コースである「維新の雄」大隈重信の足跡を訪ねるウオーキング」コースの視察などを行い、意見交換を行ってきた。

また、佐賀市には佐賀の幕末に関する様々な観光商品やお宝があるが、これまでそれがなかなか生かされていない、観光客が呼び込めていない、観光資源がいっぱいあるのにそれぞれを繋げていけないなどという意見が委員会であった。

今後の進め方

〔意見〕 観光客がそこに行けば、見たいものの大半が凝縮されているサテライト会場のような場所が必要になると思う。

〔意見〕 観光というものは価値観の問題なので、見ることで価値を得たいと思わせるものを発信できる場所をつくる必要がある。

〔意見〕 維新、明治期に活躍した佐賀の偉人たちの足跡をたどるという意味では、

もっと発掘すべき場所があると思う。

〔意見〕 サテライト会場のような場所をつくるとして、その中に佐賀の七賢人以外の新しい人物をピックアップする必要がある。

今後は、サテライト会場の必要性とあわせて、佐賀の観光振興に欠かせない新たな観光資源として、佐賀の七賢人以外の人物も探し出していくこととなった。



佐賀城鯨の門（撮影：野村詩朗さん）

用・排水対策 調査特別委員会

一月十三日開催

今後の進め方

これまでの現地視察や先進地視察、調査等を踏まえ、今後委員会で取り組むべき課題等について協議した。

〔意見〕 排水を行う際には、河川、有明海にいかにも早く排水するかが一番大切だと考える。また、有明海の干満の差を利用して排水することも有効と思われる。

〔意見〕 尼寺団地の排水対策については、新工業団地の整備と並行してきちんとしていく必要がある。

〔意見〕 樋門の管理等については、国県市の三者で協議し、良い連携ができていく。今後その連携をより綿密に行うようお願いしたい。また、行政と樋門管理

者が連携し、一緒になって取り組むことが重要である。

〔意見〕 水田の貯水機能が損なわれてきているので、貯水タンクの普及等に取り組む必要がある。将来的には地下浸透施設の建設についても考える必要がある。

二月十日開催

講演「佐賀平野の水」

佐賀大学監事で佐賀市水対策市民会議会長の川上義幸氏を招き「佐賀平野の水」というテーマで講演していただいた。

〔講演主旨〕 現在、佐賀江川や十間堀川、大溝川の水位を下げて、初期貯留の機能を持たせようと取り組まれている。そのような取り組みと同時に、国が持っている河川改修等のモデルデーターを活用させてもらうなど、かかる時間や費用、効果を見きわめながら、取り組むことが大切である。

佐賀市上水については、多布施川に毎秒一ト近くの水利権を持っているが、今後も同様の水量が確保できるのか確認する必要がある。



講演のようす

今後の進め方

多布施川の水利権問題、樋門管理者との意見交換、南部地域の排水問題、駅周辺・愛敬水路のネック箇所解消、お濠の活用、大島ポンプの本設置、尼寺団地及び新工業団地の排水問題、城東川上流部の排水問題、高木瀬地区の調整池整備及び大溝川上流部の排水対策、貯水タンク及び地下浸透施設の設置等について順次調査を進めていくこととした。

特別委員会

交通政策 調査特別委員会

一月十七日開催

十一月十六日及び十七日に実施した市中部地域バス利用実態調査の報告

運転手のマナー向上とその他のための研修の強化、ブリペイドカードの導入、バス停ベンチの速やかな設置、市営・民間バスのシルバークラスの一元化、アイドリイングストップの推進、バスセンターにおける掲示物や案内等の改善、バスの時間前通過の根絶、バスセンターを中心とする放射線状の路線の見直しなど、利用者意見等から抽出した課題について報告された。

行政視察後の委員間の意見交換

①市民ニーズに合った路線運行を維持するに当たり

設定②一便一人以上の乗車がなければ路線廃止③市負担上限額の設定の三つの基準が明確に示されていた。また、存続の是非については、収支による判断基準を持つているとともに、例えば路線バスを廃止した場合には乗合タクシーを設定するなど、段階的な政策が用意されていた。本市でも参考とすべき点が多かったとの見解で一致した。

二月十五日開催

バス利用実態調査の結果に対する執行部の考え方

〔説明〕基本的には現状の路線バスの路線数は維持したいと考えているが、市営・民間バスともに、バス事業者は経営的に苦しい状況である。今後さらに乗客が減少することが予測され、欠損金を市がどこまで補てんするのかを考えざるを得



委員による利用実態調査

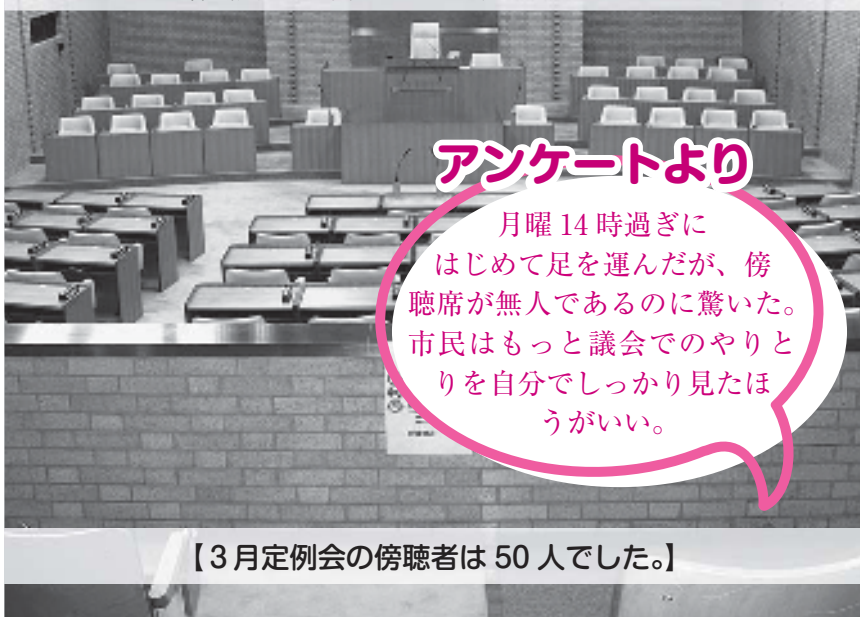
ない。企業の採算性と住民サービスとのバランスをどうとるかというのは非常に難しい問題と認識している。〔質問〕市民の交通手段を確保する観点からみた場合、年間どのくらいの費用を出しているのか。

〔答弁〕市営バス運行及び富士、三瀬のコミュニティバス、民間バスへの補助等を含めて約四億六、〇〇〇万円支出している。

〔意見〕コミュニティバスや廃止代替バスの見直しに当たっては、住民も一緒になつて考えてもらつような検討の仕方が必要である。

傍聴してみませんか

議場には一般傍聴席が 74 席あり、どなたでもその様子を見ることができます。車いすでの傍聴もできますので、ぜひおいでください。本会議のほか各委員会の傍聴もできます。



アンケートより

月曜 14 時過ぎにはじめて足を運んだが、傍聴席が無人であるのに驚いた。市民はもっと議会でのやりとりを自分でしっかり見たほうがいい。

【3月定例会の傍聴者は 50 人でした。】

意見書

- ▼玄海原発3号機の放射能漏れの原因究明と原子力行政の抜本的見直しを求める意見書案（賛成少数で否決）
- ▼国による乳幼児医療費無料制度の創設を求める意見書案（全会一致で可決）

人事

- 人権擁護委員候補者の推薦について、次のとおり異議なき旨答申した。
- ▽千綿 勝之（鍋島町大字森田）
- ▽江頭 敏男（諸富町大字徳富）

佐賀市議会 6 月定例会のお知らせ

6 月 13 日（月）午前 10 時開会（予定）

※正式な日程が決まり次第、市のホームページでお知らせいたします。